

みなばらはし 南原橋

鷲流峡に架かる橋

天竜川で最初に洪水でも流されない定橋が架けられたのが、南原橋。
1870(明治3)年に完成した初代の南原橋は、橋脚を使わない「はね橋」構造であった。
川幅が30間(54m)と比較的狭いが、断崖絶壁の鷲流峡に橋を架ける仕事は容易ではなかった。
南原橋右岸川岸には、はね木を支えたと思われる穴が開いている。
左岸側にある橋場稲荷境内には、1928(昭和3)年に建てられた南原橋の碑がある。



鷲流峡に架かる南原橋



橋場稲荷



初代南原橋の図(版画『天竜川の橋』より)

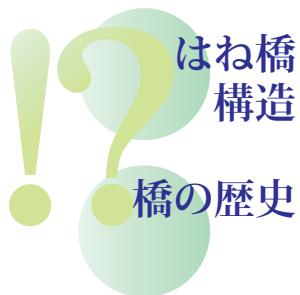
information

□ アクセス

飯田線駄科駅から
500m
徒歩→6分

□ 所在地

飯田市下久堅南原
～駄科



はね橋は、岸の岩盤に穴を開けてはね木を斜めに差し込み、中空に突き出させる。その上に同様に何本も重ねて遠くはねだしていく。この上に板を敷いて橋にする。この手法により、橋脚を立てずに架橋することが可能となった。

はね橋は洪水の際、岩盤に支えてあるはね木が水圧によって破壊され、流失してしまう。そのため、6代目の南原橋は吊り橋に代わっている。
9代目の南原橋は当時東洋随一の規模と言われ、吊橋は鷲流峡の景観を一層高めた。現在の12代目の橋は、1975(昭和50)年竣工。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)